

| 科目名 | 担当教員 | 学期 | 単位 |
|-------------|-------|----|----|
| 政治学研究方法（規範） | 谷澤 正嗣 | 前期 | 2 |

講義概要

現代の政治社会を規範的に評価する際に必要となる「概念(concepts)」を知り、それらの概念を用いた「概念分析(conceptual analysis)」という研究手法になじみをもつことが、この講義の目標である。ジョン・ロールズの正義の理論をはじめとする現代の主要な政治理論を取り上げながら、権力、自由、正義、平等、デモクラシー、国民国家、市民社会、シティズンシップ、リベラリズム、功利主義、立憲主義、フェミニズムといった現代政治学の基本的な諸概念について理解をはかるとともに、規範的な観点から見るときの今日の政治／政治学において重要な論点／争点とは何か、それらはどのような手法で論じられているのかを明らかにしたい。毎回の講義は、それぞれのテーマについてのレクチャー（1時間10分）と質疑応答（20分）を組み合わせておこなう。受講者全員があらかじめ指示されたテキストを精読しておくことを求めるのに加えて、それぞれのテーマについて複数名の担当者を決め、テキストの論点に沿った問題提起を求める。

シラバス

以下の予定を立てているが、受講生の希望に応じて講義内容を変更する余地はある。また、テーマによっては専門家をゲスト講師としてお招きすることを計画しており、そのための調整も必要になる。したがって、スケジュールには少なからず変更の可能性があることをお断りしておく。

- [第1回] イントロダクション：規範的政治理論とは何か
- [第2回] 概念分析とは何か：政治・権力・自由
- [第3回] 現代リベラリズム（1） 功利主義と契約主義
- [第4回] 現代リベラリズム（2） 平等主義の展開
- [第5回] シティズンシップ
- [第6回] フェミニズム
- [第7回] 公共性とデモクラシー（1） 公共圏と討議
- [第8回] 公共性とデモクラシー（2） 公共政策
- [第9回] 公共性とデモクラシー（3） 社会保障と公共性
- [第10回] 立憲主義とデモクラシー
- [第11回] 国民国家とナショナリズム
- [第12回] 国際社会と正義
- [第13回] 政治思想史と現代の規範理論
- [第14回] 政治経済学と規範理論
- [第15回] まとめ：

教科書

以下の二点に関しては、毎回の割り当て箇所を全員が必ず読了して講義に出席することを求める。

川崎修・杉田敦編『現代政治理論』（有斐閣、2006年）

W. キムリッカ『新版 現代政治理論』（日本経済評論社、2005年）

参考文献

講義開始時にリーディング・リストを配布するほか、学期中に随時追加する。

評価方法

講義参加と学期期試験によって評価する。評価の割合は、おおむね試験80%、出席・報告・発言等の講義参加が20%と理解されたい。

関連URL

備考